平成9年2月1日発行

青年部だより

［第3号］
［第4号］

社団法人 岡山ビルメンテナンス協会青年部広報委員会発行

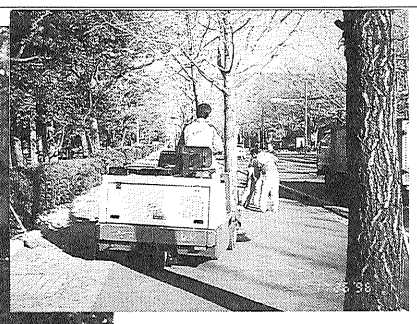
秋空の下、奉仕清掃でいい汗

…青年部会30名・岡大周辺歩道でアピール活動…

岡山ビルメン協会青年部会は、今年度事業活動の一つとして決めたボランティア清掃を、10月26日、岡山市津島の岡山大学の周辺歩道で実施した。

協会が社会福祉活動として毎年、旭川学園で行なっている施設清掃に巾を加え、社会生活に欠かせない快適環境づくりに役立とうとしているビルクリーニング業界を、一般の人々にもっと認識してもらおうというのがねらい。

青年部会が初めて行なう対外アピール活動の重要さを認識された全加盟会社と事務局の意気込みに、清掃資機材会社の多大なご協力の後押しが加わり、大勢の通行者の間を縫って全員がキビキビと動きながら気持よい汗をかき、無事、第一回のボランティア行動を終了した。



当日は、前日までのあやしい雲行きとは一変して、澄んだ秋空、文字どおり日本晴れの天候に恵まれた。

集合予定の八時半には、大学事務局棟前に予定した会員26名、賛助の各社の方々を加え30名を越える参加者が勢揃いした。

事務局が用意した「岡山ビルメンテナンス協会」の白ぬき文字入りのグリーンのユニホームを全員着用して、開始前のミーティング。

宮下部会長から「業界の体質も仕事の方法も少しづつ変り、人材資質も向上しているが、3Kイメージの克服や、不況下では経費節減の矢表に立つ私たちの仕事を、一般の人々にもっと知ってもらい、社会的に存在感を持ち、私たち自身が従事することを誇れる仕事として発展させるにはまだまだ自分達の努力が必要だ。今日の行動もその一つとして成功させよう。」と開始宣言。

作業は四班に分かれ、各班二百～三百米の歩道とその周辺を担当し、これに資機材会社の皆さんの運転操作するマシン数台が加わり、広範囲に作業が展開された。

遠方まで立ち並ぶ銀杏等の街路樹の落葉がゴミの大部分であるが、竹箒で数メートルも掃くとビニール袋が一杯になる程、大量である。

スイーパーなどで集塵した後には、たちまち袋の列が並び、「さすが機械だ」と効率に感心する。

幸い乾いたゴミばかりで集めやすく、風の飛散に災いもされず進行したが、この何百倍もあるだろう構内敷地の管理はさぞ大変……と、大学側の仲間の苦労が思いやられた。

切れ目ない学生、通行人の邪魔にならないよう箒の向きや後方移動に注意しながら掃いていると、遠くから自転車を降りて気使ってくれる人、ご苦労様と声までかけて下さる人もいて実に気持がいい。

いつの間にか三時間が経ち予定範囲の作業が終っていた。

終了確認のあと協力会社の方々から、作業に加わってもらった各々の機器の説明や紹介を受け、新機械知識を深めることができた。

昼食を利用した反省会では参加者からの特別な意見は出ず、北海道での青年部交流に参加した代表や、世界ビルメンフェアに参加した部会長の土産話しを楽しく聞きながら今後の活動を約して、有意義な一日の行動を終えた。

全国ビルメン青年部交流会

北海道にて開催

《開催日》10月1日～2日

《出席者》

ビルメン新世紀会（北海道）出席29名
ビルメン経営フォーラム21（東京）出席5名
OBM三木会（大阪）出席11名
岡山ビルメン青年部 出席3名
広島ビルメン青年部 出席9名
福岡ビルメン青年部 出席4名

《研修会》

各会リーダーより活動状況

WTO、会の特色、都道府県のPR等を発表し、中でもWTO問題については外国からの参入は無いが指名入札から一般入札に変り高額物件の新規交代例が多く見受けられた。

参加者全員の意見により本交流会を毎年持ち回り実施が提案され、大阪代表者がこころよく、次回ホスト役を受けられた。来年度は全国大会と同時開催でもありより多数の出席で全国にPRして青年部の全国組織化を目指し、連携を取りあって、活発な活動を行なおうと約束し盛大の内に研修会を閉会した。

CLEAN CREW

OBMA 岡山ビルメンテナンス協会

協力頂いた資機材会社

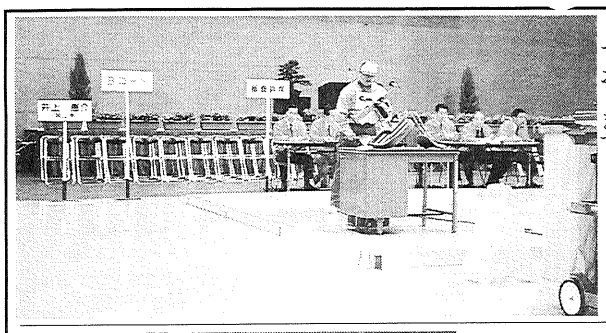
ペンギンワックス㈱
岡山スバル自動車㈱
岡山トヨタフォークリフト㈱
ユシロンテック㈲
㈲井元商事

ビルクリーニング技能競技大会報告

第4回ビルクリーニング技能競技中国大会が11月6日、7日の二日間にわたり、西の京都と言われる山口市のスポーツ文化センターにて開催され、㈳岡山県ビルメンテナンス協会からも橋本会長をはじめ、役員の方々が多数応援に駆けつけてくださいました。

岡山からは、㈱サピックスの井上恵介君、大永事業㈱の小川昌作君、倉敷警備保障㈱の古谷誠君の3名が出場され日頃の実力を十分に発揮しました。あと一歩のところで惜しくも入賞は逃してしまいましたが、大変レベルの高い大会であり、出場された皆さんが胸の張れる内容でありました。

次回開催の鳥取大会では、〝是非入賞を！〟と協会をあげて応援していくとのことです。参加予定選手諸君の今後の修練を期待し、日々の仕事の中での一層の活躍を願っております。



青年部忘年会開催される

平成八年度・岡山ビルメン青年部会の忘年会が、さる十二月十一日にまきび会館において部会員20社22名と協会事務局2名計24名の参加をえて盛大に開催されました。

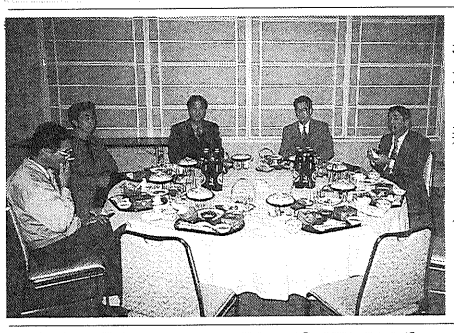
昨年十月に産声をあげてから初めての忘年会であり、日頃各委員会での活動を中心に参集していた部会員にとって総会以外で全員が参加する企画は、研修会・ボランティア活動等がありますが、今回の忘年会はそれらの企画とは違い、部会員のより一層の懇親を深める機会として計画されました。

年末の慌ただしい時期にもかかわらず、多くの方に参加頂き、お互いに日頃の仕事を忘れ和やかな雰囲気のなかで会は、進行していきました。

時間がたつにつれさすが青年部、誰が言うわけでもなくカラオケの開始、程よいアルコールも手伝ってか、のどの調子も最高潮を迎えると、時のたつのも忘れるほど各テーブルでの会話も弾んだ会となりました。

青年部の活動をより強力に推進し、新しい時代のビルメンを自分たちが築いていくぞとの熱気に満ち溢れた忘年会も、最後に参加者全員で合唱し、今後のお互いの健闘を誓いあって散会しました。

今回参加出来なかった会員の方も次回は是非参加して下さい。



世界大会に参加して

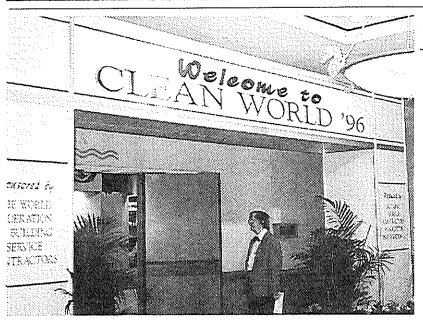
青年部会長　宮下正晴

この度アメリカ合衆国フロリダ州オーランド市において第十一回ビルメンテナンス世界大会が盛大に行なわれ二十二ケ国約一、〇〇〇名の参加があり、私も一員として大会に出席させて頂きました。

各国代表によるスピーチは不況、経済状況の悪化等による業界の純化により、否定的な成長見通しが多く聞かれビルメンテナンス業界のおかれている実状を実感しました。

又新商品の展示会も開催され、多くの参加者で賑っていました。最終日には次回開催国のオランダ、フランスによる、パーティーでフィナーレを飾り、再会を誓い閉会しました。

各会議の詳細については別の機会に報告させて頂きます。



「この一年を振り返って!!」

企画運営委員会

委員長　油谷　直幸

企画運営委員会は、青年部を「協会の知名度UP」「先ず行動」「誰もが参加」を目標に企画を進めて参りました。

今年度計画した四大行事の内三つを終り残り一つとなりました。

振り返って見れば八月のOBM三水会（大阪）との合同視察研修会は初めての他地区との交流であり大いに親交が深まり次回は是非岡山でとの声が多くありました。

また、十月には、全国の青年部の交流会が北海道で開催され地元北海道を筆頭に九州までの六地方の代表が参集し、業界の現状について熱心な討議がなされ、今後定例的に開催していこうとの要望がありました。

十一月の岡大構内清掃ボランティアでは多数の会員が参加するとともに、協力業者の皆様から大型スイーパーの提供も受け予定時間をはるかに下回る程の成果がありました。以上が実施済となり残るは、二月の研修会のみとなりました。

今後も当初目標に添った内容を考え企画して進めて参りたいと思います。

話は変りますが、十一月十九・二十日にテクノサポート岡山に於て「異業種交流プラザ中国ブロック大会」が開催され、岡山県より百八十名余り、その他中国地区より百四十名が集い、東洋産業㈱須田社長がパネラーとして登壇され「広域交流時代の企業展開」について講演されました。

又新製品展示会場では「サマンサクラブ」が清掃ロボットを展示、実演し若い女性の説明が人目を引いていました。

我々ビルメン業界においても他の業界で活躍している方々も多いと思います。

今後青年部でも柔軟な考えで他業種とのグループ交流の場を持ち、新しいアイディアを掘り起して行く事が会員企業の繁栄につながるものと思います。

研修委員会

委員長　八木　始実

青年部も平成七年十月発足より、一才の誕生日を迎えました。発足にあたって、諸先輩方のご努力に対し敬意を表する次第であります。

これを受け、青年部に研修委員会が設けられ、私が研修委員長に任命された時、責任の重大さを感じざるを得ませんでした。研修委員会は、副委員長に西日本建物㈱、横山氏、委員には、㈱不二ビルサービス岡山支店、㈱日建、㈱明和ビルサービス、東洋ポリッシュ㈱、倉敷警備保障㈱、㈱アラキ、㈲瀬戸内ビルサービス、の九社で構成され、皆さん熱心に取り組んで頂き、打合せにもほとんどの方が参加下さいました。今年の研修委員会の大きな行事としては、OBM三水会（大阪）との合同研修で大阪の「梅田スカイタワー」の見学がありました。二つの超高層ビルを百七十米の最上部でドーナツ型の空中庭園でつないだユニークな形と大きさ、設備の発想等はさすが、との印象を持ちました。又、三水会との交流もざっくばらんな雰囲気で、意義あるものでした。尚、本行事に当っては企画運営委員会の皆様にたいへんご協力を頂きありがとうございました。第二回の研修会は、平成九年二月頃の予定であり、会員各位のご協力とご参加を、心よりお願いする次第であります。この一年を振り返って、研修会の難しさ、困難さを感じており、反省しきりの一年でありました。

さて、今後研修委員会と致しましては、会員各位のご要望をなるべく多く取り入れ、皆様に満足頂けるべく、努力して行く所存であります。つきましては、皆様が日頃かえている、課題や問題点、勉強したい事や見学して見たい所など、研修委員会までご要望頂ければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

又、研修委員会と致しましては、企画運営委員会、広報委員会のご協力なしでは成り立たない所であり、今後とも、ご支援、ご鞭撻のほど、心よりお願いする次第です。

研修委員会の皆さん、平成九年も一致団結し、がんばって研修委員会を立派な委員会に育ててまいりましょう。

以上

広報委員会

委員長　小川　昌作

早いもので、岡山の青年部が結成されてから1年が過ぎました。

いつの間にか1サイクル廻ってしまったなあという感じです。

青年部結成後、間もなく、広報委員長を仰せつかったあの時には、一体何をしていけば良いのか途方に暮れるありさまでしたが、青年部会員の皆様が何度か顔をあわせることによって様々なアイデアが出て各委員会ともそれぞれ活発な活動を展開することとなりました。

広報委員会におきましては基本的な活動を年2回以上の広報紙（青年部だより）の発行と、年1回のボランティア活動を通じた、対外的な広報活動を行うことを委員会発足の際に決めました。

発足より現在までを振り返ってみると、結果の善し悪しは別と致しまして、最初に掲げた取り決め事項は、おかげさまでこなす事が出来ました。

思い返せば、青年部だより創刊の際は、私と、副委員長との独断専攻見切り発車によらざるを得ない状況でしたが、第2号からは、写真係、記事係、編集係というように、役割分担を決め、委員皆が何らかの形で紙面作りに参加するような形が出来つつあります。

この事により委員は少しづつ負担が伴う事となったのですが、その反面普段会う機会の少ない人たちとも交流が深まりました。

いろいろと課題はあるものの更にこれを良い方向へ軌道修正しながら継続させる事により将来的には、岡山協会本体の組織活性化、ひいては業界の地位の向上に寄与できるものと考えます。